

大河ドラマ「いだてん」の撮影協力『リアル人足』

相田 尚

NHK 大河ドラマ「いだてん」の初回冒頭は、この土工夫のシーン（写真—1）から始まり、驚きで思わず鳥肌が立った……。

1. いきさつ

2018年2月某日、JCMA 機関誌編集委員の岡本さんから電話があった。

岡本さん：「昭和30年代の舗装工事をドラマで再現したいそうなのですが、その頃の施工機械とエキストラに演技指導できる人はいないだろうか？」

私：「いやあさすがにそんなに古い機械は無いですし、その頃の現場を知る現役の方はもういないですよ。」

岡本さん：「来年のNHK大河ドラマで、第1話のファーストシーンみたいです。」

私：「…やりましょう！」

そして数日後、東京日本橋でNHKドラマ制作局M氏を交え、最初の打合せを行った。撮影の計画は壮大であった。M氏によると、昭和30年代の日本橋周辺の建物や路面電車まで茨城県のつくばみらい市に建設中とのことで、そのファーストシーンの重要性を熱く語られた。その熱意に押され、

私：「せっかくなら演技指導するのではなく、我々本

物の舗装屋が手伝いましょうか？」

M氏：「本当ですか！是非お願いします！」

そういうことから、我々の大河ドラマ撮影協力が決まったのであった。ここでは、第1話冒頭、第6話をお伝えします。それと協力している岡本さんの話を少し、ドラマが進行中なので裏話はまだ話せなく、差し障りのないことだけを追記します。

2. 準備

数回に渡って打合せや下見を行い、工事の設定は路盤工の整正作業となった。そこに必要な重機としてマカダムローラの他、様々な当時の様な道具の準備が必要であった。マカダムローラは、酒井重工業㈱で保有しているKD120（10t）（写真—2）を借用した。また、舗装工事に必要なアスファルトフィニッシャーも用意することになり、群馬県の小板橋建設㈱より1974年製範多機械製AF-200（写真—3）を借用できた。どちらも機体の状況は良好で、AF-200は今でも現役で工事に活躍している機械である。

その他、古いモルタルミキサや、今では少なくなった柄が木製のスコップやレーキ等も準備した。



写真—1



写真—2 酒井重工業所有 KD120



写真—3 小坂橋建設所有 AF-200 (範多機械製)

3. 第1話ファーストシーン

『昭和30年代後半、東京日本橋。古今亭志ん生(ビートたけし)と娘の美津子(小泉今日子)の乗ったタクシーが渋滞にはまっている。その周りではあちこちで道路工事が行われている。その合間を白いランニングシャツ姿の日本最初のマラソンランナー金栗四三(中村勘九郎)がさっそうと走り去る…』

4月某日、老若男女18名で現場に到着して早々に衣装とメイクが施された(写真—4)。中には十分に日焼けしていてメイクが殆ど要らない人もいた。衣装部屋では「あなた方がリアル人足ですね。」と、今ではあまり聞かない単語で迎えられた。

撮影は、朝から夕方までの長時間に渡った。撮影中は、頻繁にメイクさんが疑似の汗を付けに来る(写真—5)。しかし当日は非常に暑く、次第に本物の汗と日焼けに変わっていった。

我々は3つの持ち場に配置された。路盤整正のシーンでは、年代もののダンプトラックに碎石を積み(写真—6)、実際に荷下ろしをして、ローラも実際に前後進する。リハーサルを何度も繰り返し、動きの指示を受け、ようやく本番となる。助監督のメガホンの号令や注意で現場は独特の緊張感があつた。また、同じシーンでも様々な角度から撮影するので、とても時間が掛かり結構な重労働であつた。

他にも歩道で2班が作業を行い、様々なシーンを撮影したが、その1箇所のシーンが放送開始とともに映しだされた弊社社員扮する冒頭の写真—1である。



写真—5 メイクさんによる疑似汗添加



写真—4 第1話参加メンバー(後列左から4人目が筆者)



写真—6 撮影中全景

4. 第6話の1シーン

『同じ頃の東京、羽田空港から芝までの道路が渋滞中。タクシーの中にはオリンピックを招致した田畑政治（阿部サダヲ）、東龍太郎（松重豊）、岩田幸彰（松坂桃李）。イライラした田畑は、工事の交通整理員や前の車に対し、理不尽に文句を言い出す…』

第1話の撮影が終わって、5ヶ月ほど過ぎた9月末頃、NHKドラマ制作局から突然の電話があり、来週もう一度協力して欲しいという連絡があった。「さすがに来週というのは急過ぎて難しいですよ。」と答えたが、結局11名で参加した（写真—7）。内容的には同じように周辺での工事作業やダンプの荷台に座っているシーンであった。撮影では、阿部サダヲ扮する田畑政治と言い争う台詞を貰った者もいたが、放送ではカットされていた……。

5. 岡本さんの追記

都内の建設展示会で鳴った携帯を取上げると、NHK

のM氏からドラマの撮影協力の依頼であった。何故かJCMAの某氏から紹介されたとのことで、仕方なく引き受けることにした。

後日、渋谷で打合せをすると、東京オリンピックに因んだ大河ドラマで、日本橋の首都高架設シーンを背景に都内のオリンピック前の建設ラッシュを描きたいとのことで、それでは、まず道路舗装シーンの実写を入れることを提案して、稼働可能な舗装用機械を探し始める。演技指導は、編集委員の舗装屋さん（NIPPOの相田尚氏）に電話して依頼することにする。背景の首都高架設のCG作成用図面は、首都高の元編集委員I氏に電話した。ビル建設やディーゼルハンマの槌音とCG作成も検討したが、実現しなかった。

当時の舗装工事には、旧型マカダムローラが相応しく、フィニッシャとボンネット型ダンプも必要、グレーダも欲しい。まず、酒井重工業に稼働可能な旧型マカダムを問い合わせるが無く、関東の施工業者も保有していないとのことであった。全国でいろいろと探すと某博物館に旧型のマカダム、グレーダ、フィニッシャの3点セットを見つけた。しかし、オーナに連絡すると丁度処分した後だった。

NIPPOの相田さんに演技指導を依頼したとき、フィニッシャは用意できるとのことで、マカダムを探し続けた。漸く、酒井重工業本社でも把握していない稼働可能な1962年製マカダムKD120が某工場にあることを突き止める。ロケ当日前に少し化粧直しをして搬入された。ダンプは、年代物の日野のボンネットに新明和川西モーターのダンプを架装したものを美術さんが用意した。

次に、ストックホルム・オリンピック予選となる羽田競技場のトラック造成や校長室のシーン撮影のために、当時の土工具や測量用具・製図器具、製図法・測



写真—7 第6話参加メンバー（後列右から2番目が筆者）



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

写真—8 ①日本橋全景、②～⑥：日本橋の撮影、⑦～⑨：羽田運動場のトラック造成と予選会

量方法・施工法等の写真や資料を探して提供した。何度も打合せを行い、WS江戸や東宝スタジオ、渋谷の仮事務所、ロケ地の九十九里浜片貝海岸に出掛けた。基本的な台詞の台本はあるが、撮影内容や段取りは諸般の事情でころころ変わる。そして、実際の映像は、史実よりもドラマチックで映像効果を狙ったものになる。無駄骨も多く、余り真面目に協力するのも馬鹿らしくなったが、大河ドラマの製作過程や撮影の裏側がよく判った。羽田予選会場の建設風景や予選会のシーンは、片貝海岸で3日間に渡って撮影され、回想的に何度も繰り返し放映されたが、出演俳優の不祥事が発覚して、NHK オンデマンドから4～8話が削除されて、後で観ることができなくなり残念。

6. おわりに

2019年1月6日から始まった「いだてん」は、個人的には思い入れもありとても面白く拝見している。第1話のファーストシーンで我々が関与している箇所はほんの数秒であるが、制作局の方から「大河ドラマ史上、間違いなく歴史に残るシーンにできあがった」と言われ、少なからず協力でできて良かったと思っている。実はある本番シーンでは、私の合図で動き出す場面があり、そこで私のミスでNGを出してしまい、結構本気で怒られたことなど色々裏話もあるが、それはまた別の機会に個人的に……。

J C M A

【筆者紹介】

相田 尚 (あいた ひさし)
 (株) NIPPO
 JCMA 機関誌 編集委員 (当時)

